

府中町ふるさと歴史散歩

〔第43回〕

大化の改新と律令制と安芸国の成立⑦

白村江の敗戦から八カ月後の
天智天皇三年（664年）5月には、
唐の百済駐屯軍の軍使一行百数
十人が筑紫国に來日して年末ま
で滞在している。その翌年（665
年）の9月には唐王朝からの正
式な使節一行、二百五十余人が
筑紫国に來て都に赴き、12月ま
で滞在している。また、天智天
皇六年（667年）11月には、唐の
使者として司馬法聰が筑紫にやっ
て來た。これらの使節がどのよ
うな船で來航し、目的が何であつ
たか記録に無く、詳らかではな
いが、先の戦いを通じて大皇帝
国の實力を知っているだけに、
敗戦直後の使節の來航は、
戦々恐々たる思いがあつたに違
いない。倭国は白村江の敗戦後、
直ちに對馬、壹岐、筑紫に防人
と烽（烽火台）を配置したのを
始めとして、大宰府を守るため
水城や朝鮮式の山城である大野
城を築き、瀬戸内海の要所には
神護石と呼ばれる防衛施設を設

けた。これらは唐・新羅に對す
る国土防衛のために築いたもの
であつた。

従つて、中央政府においては、
山陽道と瀬戸内海航路ベルト地
帯でどこが重要な防衛拠点とな
りうるか、物資の移動等のため
の大型船の建造をどこで行うか
が最も重大な関心事であつた。
安芸国は前回の歴史散歩で記述
したとおり造船に関して適した
国であり、その国府の位置選定
においては、これらのような観
点や東アジアの国際情勢が十分
に関係しているのである。

この後、倭国は天智天皇四年
（665年）、六年（667年）、八年
（669年）の三回にわたつて遣唐
使を派遣している。これらの遣
唐使は百済駐留の唐軍との間の
戦後処理をめぐる政治的交渉の
ために派遣されたものであつた。
けれども、天智天皇六年（667年）
11月には、唐の百済駐屯総司令
官によつて、665年に派遣した遣

唐使を送還してきたのを契機に、
大和に高安城、讃岐に屋島城、
對馬に金田城を築き防備を固め
たことは、政治的交渉が決して
樂觀的ではなく、緊迫していた
ものと理解できよう。しかし、
四年後の天智天皇十年（671年）
には唐の使節が百済の役（663年）
の時の捕虜の送還と百済の難民
2,000人を率いて筑紫へやっ
てきている。この頃になると、
戦後処理も進み、緊張緩和へと
動いたのだろう。『日本書紀』
の中の伊予国越智郡大領の祖の
説話に「越智一族は百済の役に
参加し、唐軍の捕虜となつたが
観音菩薩を念じたおかげで帰国
できた」とあるが、全くのフィ
クションではなく、案外史実を
伝えている可能性が高い。

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

人の動き

5月1日現在(前月比)

人口	51,870(-47)
男	25,519(-26)
女	26,351(-21)
世帯	21,419(+37)
面積	10.45km ²

町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

（敬称略）

氏名（年齢）	住所	死亡日
土井 春男（86）	みくまり二丁目	3/30
岡本サチ子（81）	宮の町二丁目	3/31
池田 一二（87）	みくまり三丁目	4/2
天野 和子（75）	みくまり三丁目	4/11
中野ハスヨ（98）	鹿籠一丁目	4/13
佐々木了眞（73）	青崎中	4/15
中塚 亀代（99）	青崎中	4/16
原 壽子（91）	本町三丁目	4/21

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲
載申出書」の提出があつた場合のみ掲載
しています。

問い合わせ

地域振興課広報公聴担当

☎ 286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中（社協だより）」のカセットテープ版・点字版を、
希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎ 285-7278 FAX 287-3467

